

協働 の取り組み

限りある財源で、より効果的に冬のみちづくりを進めるためには、市民と行政が一緒に取り組むことが必要です。

【目標1】冬の市民生活ルールの確立

【目標2】排雪量の抑制

- 冬のルールについて、市民の意識啓発を強化します。
- 警察と連携したパトロールを強化します。
- 地域懇談会など市民・企業・市が話し合う場を創出します。

市民

守ろう!一人一人の雪ルール

もしも

市民の皆さんが一人につき、スノーダンプ1杯分の雪を道路へ出さずに敷地内で処理すれば、市全体で約2.4億円の経費の節約につながります。

敷地内から道路へ雪出しをしない

これが守られないと

- 出された雪で道路がでこぼこになり、交通事故や渋滞が発生。
- 排雪量が増えるため、雪たい積場へ運ぶ経費が増大。雪たい積場の不足もますます深刻に。

路上駐車をしない

これが守られないと

- 路上駐車している場所の作業ができなくなり、除排雪が不均一に。
- 作業中、路上駐車している車両にぶつかるなどの事故が発生。

除雪後、間口に置かれる雪の処理は各家庭で行う

なぜ?

- 通勤・通学時までに作業を間に合わせるには、雪を左右にかき分ける除雪が精一杯で、除雪後に各家庭の間口に残ってしまう雪まで市が取り除くことはできません。
- 民間除排雪サービスやロードヒーティングを利用している個所についても、作業上、個別に配慮することは困難です。



地域

話し合おう!地域に合った雪ルール

市民・除雪事業者・市が地域懇談会などで、雪の問題を話し合う事例が増えています。地域の実情に合ったルールを実践することで、雪の問題を改善しています。

今年度までに
「地域懇談会」を行った町内会
約**500**町内会

事例1

地域を巡回し路上駐車を防止

【清田区里塚緑ヶ丘町内会】

この地域は市でワースト1といわれるほど路上駐車が
多く、そのために除雪が行われず住民が迷惑して
いました。そこで、土木センターと合同でパトロールを
始めたところ、5年前に293台あったものが、
昨年170台に減少。パトロールを重ねるうちに
住民が協力的になり、地域に一体感が生まれてきたと
肌で感じます。

見つけた路上駐車に
ステッカーを
張っていきます→



里塚緑ヶ丘町内会会長
菅野 重夫さん

事例2

公園を雪置き場として活用

【手稲区手稲パークタウン町内会】

道路脇の雪を公園に置きたいという住民の声を
受け、土木センターに相談し、取り組みを
始めました。常時スノーダンプで雪を搬入
できる場所ができ、住民からは大変好評
です。以前から夏場には町内会でごみ拾
いや遊具の塗装などを行っていましたが、
今は1年を通して公園を住民で管理して、
有効に利用しています。

←雪の季節に備え、
住民が公園のベンチの
冬囲いをしています



手稲パークタウン町内会環境部長
斉藤 昭文さん

